

ISSN 0912-9383

老人病研究会年報



Integrated Sanjiao International

Annual Report No.43

2023

一般社団法人 老人病研究会

<http://gochojunet.com/>

アインシュタイン曰く

先端科学で欠けるところがあるとすれば
それは東洋哲学であり、仏教であろう。

色即是空 空即是色
見えれば粒 見えざれば それは波動なり

三焦鍼法の奥義は量子力学にあるか？

2023年6月30日

川並 汪一



目次

巻頭言 State of the Art 「COVID-19 と三焦鍼法と自律神経」 会長 川並汪一

〔I〕 三焦鍼法 Primary Objectives	3
三焦鍼法と認知症と Gold-QPD 鍼灸師の 12 年	兵頭 明 常務理事
三焦鍼法の手技トレーニング部門の特徴	植松 秀彰 理事
〔II〕 三焦鍼法 Extending Objectives	
経験は新たな発見発展につながる第一歩	Gold-QPD 第 12 期生 越智富夫 11
三焦鍼法とコロナ後遺症について	Gold-QPD 第 2 期生 宮本泰之
Gold-QPD 鍼灸師取得後 10 年経って思うこと	Gold-QPD 第 2 期生 村橋健三
〔III〕 New Concept : 三焦鍼法と大脳辺縁系	会長 川並汪一 19
〔IV〕 三焦鍼法活動の元拠点	
「街ぐるみ認知症相談センターの誕生と現在」	
日本医科大学武蔵小杉病院 同センター長	小澤明子 22
「緒方知三郎先生の胸像移転（緒方洪庵記念財団へ委託）」	川並汪一
〔V〕 一般社団法人老人病研究会の事業	25
令和 4 年度事業報告	
一般社団法人老人病研究会の事業報告	
「鍼灸ルネサンス」の発行	川並汪一編著 2022 年 4 月
セイリンセミナー「三焦鍼法の新しい世界：鍼灸ルネサンス」	同 10 月
「三焦気化与三焦針法」(中国語)発行	韓景献(顧問)編著 2022 年
令和 5 年度事業予定	
「三焦鍼法実践セミナー」ガイドライン	27
三焦鍼法実践セミナーの受講手続き	28
セミナー卒後、社団の会員登録による特典	
一般社団法人老人病研究会の新理事	32
一般社団法人老人病研究会の会員（一般・Gold-QPD）	35

編集後記 事務局長 佐藤貞夫



巻頭言

State of the Art 「三焦鍼法は生物物理と医学の芸術」

会長 川並汪一

2019 年は年末からパンデミックな新型コロナ禍に陥り、20 年、21 年は全世界的レベルで活動停止となりした。社団はその間、「認知症 Gold-QPD 育成講座」体制をドラスティックに変革し、将来に向けブースター効果を発揮できる期間となりました。

2018 年に学習講座 [Gold-QPDmooc] を「認知症・健康長寿実践セミナー」と改め、2020 年には受講手続きを含め講座そのものをほぼフルオンライン化し、2022 年には、「三焦鍼法実践セミナー」と改称しました。受講者の範囲も医師と専門学校学生に広げました。そして「医師専用鍼灸プログラム」の準備を開始し始めました。以上いわゆる「DX の実現」には、中間優理事の尽力があったことをお知らせします。

今回わたしどもは、役員的大幅な若返りで世代交代を図りました。近い将来、部門責任体制により、Gold-QPD 地域フロンティア代表が中軸となる活動態勢を構築したいと思います。そして、視野の広い「高齢社会の統合医療」を推進して行く所存です。

ところで三焦鍼法は「益気調血 扶本培元」を旗印とし、認知症患者の治療体験を積み重ねております。一方、「コロナ後遺症」や「メンタル疾患」などを治療する機会にも恵まれ、その領域でも患者さんから大変喜ばれる事実を伝え聞きます。その効果を医学的にどう理解するかは、これからの課題です。

現時点までの体験による印象では、刺鍼刺激は海馬や視床下部の所属する大脳辺縁系の異常、つまり記憶・感情・感覚に関連する脳神経不調と深く関係するよう思われます。鍼の刺激が大脳辺縁系を賦活調整する作用の解明には、脳神経内科や精神科領域ひいては先端脳科学とくに生物物理学の波動と粒子（量子力学）などの概念を含む総合科学的解析が不可欠になってゆくでしょう。

その意味で私たちは、鍼灸を“State of the Art”として位置付けたい。

当・年報第 43 号は、「三焦鍼法と脳神経機能」について模索する初めての特集となりました。お楽しみください。

[I] 三焦鍼法 Primary Objectives

「三焦鍼法による認知症 Gold-QPD 鍼灸師育成の 12 年

そして今後の役割と可能性について」

一般社団法人老人病研究会常務理事

学校法人衛生学園中医学教育臨床支援センター長

兵頭 明

日本における三焦鍼法導入の背景

2009年10月31日に神奈川県川崎市で「認知症国際フォーラム」が開催されました。これは、日本医科大学武蔵小杉病院、老人病研究所、老人病研究会が主催する認知症国際フォーラムで、認知症に東洋医学が挑むというテーマ、いわゆる日本と中国の漢方と鍼灸が認知症の方に対してどういった考えでどういったアプローチをし、どういった成果が出ているのかというパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションで明らかになった日本での研究は、認知症の行動心理症状を緩和するための抑肝散のエビデンス報告、鍼灸に関しては、残念ながらほとんどなかったことから、中国から大いに学ぼうということになりました。

とくに中国天津中医薬大学の韓景献教授が認知症国際フォーラムで発表された「三焦鍼法による認知症治療」の実績と今後の可能性に注目し、2010 年から一般社団法人老人病研究会は、認知症専門医と高齢者入居施設との連携（医療・介護連携）により、学校法人後藤学園（現 学校法人衛生学園）の協力のもとで認知症患者に寄り添う鍼灸専門人材の育成講座（認知症 Gold-QPD 育成講座）を開催することになりました。

認知症 Gold-QPD 育成講座の開催

認知症の問題についても認知機能の問題だけを見るのではなく、中医学の考え方を導入することにより全人的な視点にたった統合医療による取り組みが、ここにスタートすることになったのです。認知症の患者数は 2025 年には 730 万人に達するとされています。この喫緊の課題に対して、健康長寿の実現および健康寿命の延伸を目的に開発された三焦鍼法の考え方をベースとした医療・介護・鍼灸の 3 分野連携による認知症の予防、認知症の中核症状の改善、行動心理症状の緩和を目的とした認知症専門鍼灸師の育成プロジェクトが世界初の試みとしてスタートすることになったのです。

本育成講座が育成しようとする認知症専門鍼灸師は、認知症や高齢者の不定愁訴に対する高度な西洋医学的知識を備え、さらに中医学（中国伝統医学の略称）の考え方を共有し、認知症の方や高齢者への接遇介護法を習得し、所定の鍼灸技能（三焦鍼法）を有する専門鍼灸師です。具体的にはブロンズコース、シルバーコース、ゴールドコースの 3 段階の研修プログラムを実施し、認知症 Gold-QPD 育成講座・認定評価委員会が指導監督することにより、優秀な認知症専門鍼灸師の育成を行ってまいりました。

認知症 Gold-QPD 育成講座の全国のニーズに応える方策

全国の認知症の人とご家族のニーズに応えるためには、全国展開を視野に入れて、本育成

講座シルバーコース、ゴールドコースの臨床研修を全国規模で行える環境づくりが必要となると考えました。そこでまず全国の鍼灸学校に認知症専門鍼灸師育成のための認知症 Gold-QPD 育成講座の案内を出したところ、21 校から 23 名の教員が第 1 期認知症 Gold-QPD 育成講座へエントリーしてくれました。この 21 校の臨床施設を本育成講座の臨床研修拠点とするために、ブロンズコースが 2010 年 10 月に開催され、2011 年 1 月と 2 月にシルバーコースが開催されました。高齢者医療に対して、そして認知症の人およびそのご家族を支えるという高い志をもつ 21 校の教員がゴールドコースを修了して認知症 Gold-QPD 資格の認定を取得し、その所属校が本育成講座の認定施設となることにより、高い志をもつ全国の多くの鍼灸師が、本育成講座に参加しやすい環境づくりに取りかかったのです。

本育成講座のゴールドコース研修生は、在宅・高齢者入居施設・通所介護施設・鍼灸治療院にて認知症の方、および多くの不定愁訴を訴える高齢者に対して鍼灸による全人的総合的なアプローチを行なっています。そこで求められるのは、施術環境の違いに応じた適切な対応であり、医療連携、施設連携、家族連携をベースとして実践された数多くの症例報告が老人病研究会に寄せられています。その一部の症例報告は、在宅・高齢者入居施設・通所介護施設・鍼灸治療院でのそれぞれのアプローチとして鍼灸医学関連の専門誌である『医道の日本』誌に下記のような連載報告を行いました。

■『医道の日本』誌 『在宅におけるアルツハイマー型認知症の治療』連載シリーズ』

2013年1月号（医道の日本 第832号）

第1回 「三焦鍼法による治療」 矢野司、兵頭明

2013年2月号（医道の日本 第833号）

第2回 「MMSE値の維持と改善」 矢野司、兵頭明

2013年3月号（医道の日本 第834号）

第3回 「通所介護施設との連携による治療」 田嶋健晴、兵頭明

2013年4月号（医道の日本 第835号）

第4回 「鍼灸治療院での認知症の治療（1）」 筒井智文、渡辺明春、兵頭明

2013年5月号（医道の日本 第836号）

第5回 「鍼灸治療院での認知症の治療（2）」 渡辺明春、兵頭明

2013年6月号（医道の日本 第837号）

第6回 「パーキンソン病で認知症が疑われる患者に対する鍼灸マッサージ治療」
海老澤武士、兵頭明

また中医学の総合雑誌である『中医臨床』誌には、下記のように川並汪一会長のGold-QPD 育成講座に対するインタビュー記事、およびGold-QPD 育成講座の1期生である武田伸一先生によるアルツハイマー型認知症に対する症例が報告されました。

■『中医臨床』誌での報告

2011年6月号（中医臨床 通巻125号）

「認知症治療を担う鍼灸師の育成 ―認知症Gold-QPDの試み―」インタビュー記事
社団法人老人病研究会 川並汪一会長

このインタビューの中で川並汪一会長は、元日本医師会会長の坪井栄孝先生からの「認知

症Gold-QPDは全国レベルで展開しなければいけない、これこそ将来の高齢化社会を担う大きな力になる。そこでは医師をはじめ、看護師、保健師などを含めたメディカル要員が全員で協力すべきである。」というメッセージ（『老人病研究会年報』第33巻、2011年）を頂戴し、非常に勇気づけられたとコメントされています。

2012年12月号（中医臨床 通巻131号）

「認知症に対する鍼治療の効果ーアルツハイマー型認知症に対する1症例」

武田伸一

また下記のようにGold-QPD鍼灸師は、続々と認知症の人に対する三焦鍼法の実践成果を論文として発表されています。

■世界鍼灸連合学会（WFAS）2016つくば ポスター発表

「Gold-QPD鍼灸師22名による56名の患者に対する三焦鍼法のまとめ」

中村真通、兵頭明、韓景献、川並汪一

■全日本鍼灸学会雑誌、2016年第66巻4号

「レビー小体型認知症に対する鍼治療の1例」

ー認知能と日常生活動作に加え幻視の改善が見られた症例ー

新田敏正、中村真通、川並汪一

この他にも、多くのGold-QPD鍼灸師が各都道府県の鍼灸師会、鍼灸マッサージ師会にて三焦鍼法による認知症の人に対する実践成果を、続々と報告されています

日本初となる医療・介護・鍼灸3分野連携による認知症対応型モデル教材の開発

認知症Gold-QPD育成講座1期生の青木春美先生（学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校学科長）から認知症の人に対する鍼灸治療の症例報告を受けた学校法人敬心学園の小林光俊理事長から、「文部科学省が平成26年度、平成27年度の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」委託事業を募集しており、認知症Gold-QPD育成講座は超高齢社会を迎えた日本にとって、まさに成長分野等における中核的専門人材の養成を行っているわけだから、エントリーしてみてもはどうでしょうか。」との高い評価を頂きました。

そこで、まず文部科学省を訪問して「超高齢社会における認知症患者に寄り添う医療介護連携型の中核的鍼灸専門人材の育成事業」の趣旨説明を行い、今までに行ってきた5年にわたる認知症Gold-QPD育成講座の実績等の紹介もさせていただき、上記の委託事業に申請を行いました。かなり厳しい審査ではありましたが、最終的に文部科学省の認定を受けることができました。これもひとえに、認知症Gold-QPD鍼灸師の臨床的な実績があったからこそ、厳しい審査も通過して認定されたと、私は思っております。諸氏に感謝です。

このようにして、（一社）老人病研究会、（株）舞浜倶楽部、（学）後藤学園（現衛生学園）の共創事業による鍼灸専門人材育成の実績をベースとして、平成26年度文部科学省委託事業において「超高齢社会における認知症患者に寄り添う医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材育成事業」の認定（代表機関：学校法人衛生学園）を受け、平成26年7月から医・介・

鍼3分野連携による日本初となる本事業がスタートすることになりました。

西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系の3分野連携のもとで、認知症に対する医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材育成のための教育プログラムを策定し、3分野が一体となった3分野横断型の『認知症の人およびそのご家族を支えるための西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系3分野連携型モデル教材』（264頁）の開発を行いました。

この教材の中では、「医道の日本」誌で報告した症例報告に加えて、さらに山本竜正先生の高齢者施設における「91歳女性、アルツハイマー型認知症の症例報告」、原正輝先生の高齢者施設における「73歳男性、血管性認知症の症例報告」が収録されています。

新しい学習支援システム（認知症Gold-QPDmooc）を採用した育成講座の展開

平成27年度文部科学省委託事業申請においては、「本モデル教材のIT化による学習支援環境の整備」というテーマで企画提案書を提出し、「西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系3分野連携による認知症対応型のDVD教材」を制作いたしました。これは特に実技系（実地研修系）の動画を活用した認知症専門鍼灸師のスキルアップ、キャリアアップを多面的に支援する学習支援環境の整備をはかることを目的としたものでした。

またこのDVD成果物は、認知症Gold-QPD育成講座の新たな学習支援環境として開発された「認知症Gold-QPD mooc」により、オンライン事前自宅学習システムとして活用されることになりました。この新たな学習支援環境の開発により、（一社）老人病研究会を中心として（株）舞浜倶楽部、（学）衛生学園との産学連携のもとでの認知症対応型の鍼灸専門人材の育成事業を大々的に展開、推進していくことが可能となったのです。

フロンティア地域代表の認定、フロンティア地域代表による新たな連携創出の例

地域ごとにGold-QPD認知症専門鍼灸師の連携強化とネットワークの創出を目的に、地域フロンティア代表が認定されました。

今後は今まで以上に、フロンティア地域代表を軸としてそれぞれの地域内での交流と連携がはかりやすくなったと同時に、さらにそれぞれの地域がお互いに交流、連携をはかり、連携を強化することにより、全国的なネットワークの創出がかなり可能となりました。

ここにフロンティア地域代表による新たな連携創出、横須賀認知症連携プロジェクトについて紹介しておきましょう。この連携はフロンティア地域代表（神奈川）の高木真弥先生と5年の歳月をかけて実現した神奈川歯科大学との連携による医科歯科鍼灸連携による認知症予防プロジェクトの創出です。

- ① 5年前から神奈川歯科大学内で開催される神奈川歯科大学ジャカランダフェスティバル市民公開講座（フレイル予防、認知症予防の健康講座）を開催
- ② 2022年に神奈川歯科大学のキャンパス内での附属鍼灸臨床センターの開設
- ③ 2023年に日本橋の三越本店との連携による日本初となる医科歯科鍼灸3分野連携による認知症予防プロジェクトの創出

日本橋の三越本店新館5階に神奈川歯科大学歯科・健脳クリニック日本橋が5月に開設されることになりました。鍼灸治療については、「第3の脳と言われる皮膚への刺激により、身体や脳の活性化を促し、認知機能を維持・改善し、美と健康寿命の確保をめざします」と

いうコンセプトのもとで、医科歯科連携をベースとし、さらに軽度認知障害の治療にも実績がある三焦鍼法をメインとした鍼灸治療を提供させていただくことになっております。

大手老舗の三越との医科歯科鍼灸3分野連携による認知症予防プロジェクトは、各地域において鍼灸（三焦鍼法）による認知症予防・改善を関係団体、地方自治体を含む関係機関、高齢者入居施設に認知症Gold-QPD専門鍼灸師の役割と可能性を紹介するうえで、起爆剤になることが大いに期待されます。

今後は各地域フロンティアが地域ごとの認知症専門鍼灸師の連携とネットワークを活用しながら、さらにお互いの実績を交流、共有することによって、いままさに2025年を迎えようとしているこのタイミングを逃がさず、鍼灸（三焦鍼法）による認知症対策のターニングポイントとしてまいりましょう！

以上のように、「三焦鍼法による認知症 Gold-QPD 鍼灸師育成の 12 年」を振り返りつつ、これらの 12 年間の振り返りとその成果をふまえて、「認知症 Gold-QPD 鍼灸師育成講座（三焦鍼法実践セミナー）と Gold-QPD 鍼灸師の今後の役割と可能性」について一緒に考えていただき、一緒に実践していただければ幸いです。

認知症 Gold-QPD 鍼灸師の近未来的展望

種々の連携をベースにすることにより、認知症に限らず、高齢者のかかえる老年症候群に対しても、全人的・総合的なアプローチができる Gold-QPD 認定鍼灸師は、近い将来において広く高齢者医療の中に受け入れられることになることなのでしょう。そしてさらに、これは川並汪一会長の 10 数年来の目標（夢）でもあります。全国に開設されている多くの高齢者入居施設においても、必ず一人以上の Gold-QPD 認定鍼灸師が配備されるようになることが大いに期待されます。高齢者医療、認知症対策に対する日本型統合医療を世界に発信できる日も、そう遠いものではないように思われます。さあ、機は熟しました！待ったなしです！一緒に頑張り、ネットワークの一層の拡大と充実をはかりましょう！

「三焦鍼法の手技トレーニング講座から思う事」

一般社団法人老人病研究会
理事 植松秀彰

一般社団法人老人病研究会は創立 60 年を超えると聞きます。私は直接的、間接的に認知症治療、予防の三焦鍼法の認定講座「認知症 Gold-QPD 育成講座」に協力させて頂いて 10 数年になります。健康長寿(人生 100 年時代)の実現や健康寿命の延伸などの目的に開発されたのが三焦鍼法であると思っています。現在では三焦鍼法の鍼灸治療は認知症の予防、改善の針治療として世間に認識される治療法になりつつあり、約 200 名の認知症専門鍼灸師を輩出していると聞いています。

一般社団法人老人病研究会の特質すべきところは、西洋医学の先端医療から現代中医鍼灸・中医薬までを融合し認知症患者さんや高齢者の家族にまで学習制度を取り入れているところだと思います。医師、薬剤師、鍼灸師など西洋医学、東洋医学のスペシャリストが集い共通の認識、目的を持って認知症の予防、治療に取り組んでいます。我々鍼灸師は独りよがりになり東洋医学だけを学んでいけば良いという考えが時々見られます。老人病研究会では認知症の東西両医学からの把握、評価、そして施術後の評価と連携していることが素晴らしいことだと思います。

天津中医学院第一附属医院 院長 韓景献先生との出会い

私が都内総合病院の中医学センターに所属している時、兵頭先生のお力添えにより半年間我々の病院に韓先生ら招聘が叶いました。その時は脳血管障害の鍼灸治療である、醒腦開竅法を毎日病棟・外来にて学びました。その当時も今でいう認知症は痴呆症(老人性・若年性)と呼ばれ鍼灸施術の方法は種々有り、「背部挟脊」や「足少陰経の経穴」・「頸部の経穴(天柱・風池・完骨)の頭頂部に向けての刺鍼」等あり、現在も行われています。中国伝統医学を中医学と称しますが、我々は現代中医学と呼び古典中医学と時には分けています。中医学は温故知新で発展しています。

ご存じの方も多いと思いますが韓先生は日本語が堪能であるので通訳無しでの学習がとても直接的で身になりました。その後、韓先生が帰国された後、天津中医学院第一附属医院を訪れたときに認知症の予防、治療である三焦針法の話聞いた覚えがあります。その時の配穴処方とは今では若干グレードアップしていますが。患者さんへの対応には、韓先生は中西医结合をよく口にしていました。



受講生に対して思う事

本講座に携わって感じることは、認知症はとても身近な疾患で質疑では私も経験したことがないような現実の事象に直面します。身近な問題のためか受講生には大きな熱意を感じて、私もその都度一緒に考えながら講義を行っているのが現状です。同じ認知症でも症状や生活の環境が違うのでテイラーメイドの治療や目標の計画が必要になります。認知症の患者さんは施術所に滞在する時間より自宅や施設に滞在する時間の方が長いのが現状であるため、日常生活でのアドバイスも大きな意味を持つてくるということを私も認識しました。

また受講生の鍼灸に治療に対する考えを少し変えてもらいたいと思う事があります。いろいろな所で講演させてもらうときに最初に話すことに、鍼治療は「痛い」、「痛くない」、「刺激が強い」「強くない」の評価をすることが多いのですが、医療である以上、「効果」の判定で評価されるべきであるということです。鍼刺激が単に「ドーズオーバー」ではと聞か

れる事がありますが、私は効果が無かった時には「ドーズ過少では」と考えることも必要であると思いますと答えます。極論を言えば鍼刺激が強くても効果があれば医療として成立するのではないか、刺激が優しくても効果が無ければ医療として成立しないということです。通常我々は、注射嫌いでも予防注射やワクチンの効果を期待し接種しますし、効果が期待出来れば苦い薬も服薬するものだと思います。今でもよく受講生から三焦鍼法の鍼は痛くないのですかと質問をほぼ毎回聞かれます。その時私は効果が期待できるのであれば鍼は「痛い」「痛くない」の考え方は二の次にしましょうと話します。

また刺激が弱い人には鍼を細くした方が良いですか？これも単純に施術で使用する鍼を細くする前に、太くても「痛くない」鍼を刺鍼出来る技術を身に付けましょうと話します。施術に使用する鍼は目的によって変化させるもので、現代中医学で行う施術には「手技量学」という概念があります。鍼施術の時、多くの施術者は選穴から刺鍼までをより繊細に考えますが、私は刺鍼後に鍼をどうするかに重きをおいています。

通常中医薬では理・法・方・薬を基本としますが、鍼灸施術の場合は理・法・方・穴・術としこの術が手技量学に繋がるのが基本であると思います。

「手技量学」(理・法・方・穴・術)

- ① 刺鍼の深さ
- ② 刺鍼の角度
- ③ 刺鍼後の手技
- ④ 置鍼・手技の時間・施術間隔

「術」すなわち手技量学が治療の効果を引き出すポイントでもあると思っています。

鍼施術の格言:「妙・手・神・鍼」:絶妙に鍼を操作することで神医が扱う様な鍼術となる。

あまり細い鍼では目的の方向、深さに刺鍼が困難ではないでしょうか？とも話しています。特に認知症や脳血管障害の様に「脳」に問題であれば「脳」を感じる鍼施術を行っていきたいといつも思っています。最近では「痛い」、「痛くない」鍼を「感ずる」「感じない」鍼との評価に変えましょうと話します。「気持ち良い鍼」・「結果の出る鍼」を目指しましょうと。

また施術は術者と患者の1対1で行うものから術者と患者さんの家族を含めて進めるものであることを追記させていただきます。私は特に施術は患者さんの家族の前で行うのを推奨し患者さんだけでなく家族にもどこの場所に鍼をどう刺すか、安心、安全であることの説明を含めて施術します。(実際は家族の同伴は毎回ではないが)

鍼が痛いとお客さんが来てくれない？お客さんが減ってしまう？そうでしょうか？鍼治療の効果が無いからお客さんが来なくなり減っていくのではないのでしょうか？

私の思う事

三焦鍼法は認知症の治療、予防だけではなく広義には五臓六腑の機能を改善することによりフレイル(健康と要介護の間の虚弱な状態)の対策の一つになると私は思っています。ただ三焦鍼法は万能の治療法というわけではなく、三焦鍼法を応用・発展させることで、コロナ後遺症のブレインフォグ、老化防止サーチュイン遺伝子の活性化、腸活が脳に与える影響(脳腸相関)、睡眠負債等にも貢献出来る可能性を秘めていると考えています。但しそれぞ

れの場合は選穴や手技量学を考慮しプラスアルファを行う必要があると思います。

これからは三焦鍼法を応用、発展させることが我々の使命とも思っています。

認知症の三焦鍼法は数十年後には三焦鍼法を基本とし応用・発展した治療法が開発されているかもしれません。人間の環境や生活習慣が変われば治療法も発展的変化があるものだと思います。(温故知新)

今後の展開

これまでも川並先生や兵頭先生らの尽力で、老人病研究会として「認知症国際フォーラム」等で我々の取り組みを啓蒙しているが、

- ① 鍼灸免許有資格者と同じように一般の人々にフレイルの鍼灸の有用性をより広めること。すなわち一般の人達に効果や必要性を認識して頂く取り組みを増やす事を考え実行すること。
- ② 鍼灸師個人ではなく各鍼灸師会等と連携で啓蒙して行くこと。
- ③ 認定鍼灸師のスキルアップの講座、学会、会合の定期的開催。
などが望ましいと考えます。

最後に

以前は、東洋医学は西洋医学の補完医療、代替医療として啓蒙されていましたが私は代替医療ではなく西洋医学の補完医療だと思ふ事が多い気がします。特に器質的な問題を抱えている患者さんで手術をするかしないかは西洋医学の分野で、我々はそれに従って生活の質の向上をフォローすべきであって、手術や服薬を否定するのではなく手術や服薬の弊害(食欲不振・不眠・下痢・眩暈等)の症状を緩和させる施術を心掛けています。時には患者さんに西洋医学の治療を進めることも有ります。患者さんにとって一番の方法を考えなければなりません。ただ機能的な問題の患者さんには充分我々東洋医学の治療が活躍できる場が大いに有ると思っています。

これからも老人病研究会を発展させるには認知症認定鍼灸師の皆さんの協力が必要であることはいまでもありません。我々と一緒になって認知症の予防・治療である三焦鍼法の鍼灸治療を啓蒙、発展させましょう。

私、植松秀彰は一般社団法人老人病研究会の一員として参加させて頂いていることに感謝しています。

〔II〕 三焦鍼法 Extending Objectives

「経験は新たな発見発展につながる第一歩」

Gold-QPD 第12期生 越智 富夫

中医鍼灸 越智東洋はり院院長

私の鍼灸治療は、愛媛県今治市の故池田多喜男先生の経絡治療を拝見し、そこから、東京の二階堂塾へという経絡治療の学びから始まりました。その後、呉卓森先生と出会うことで、中医学の客観性を重視したシステマティックな弁証論治に興味を持ち、今に至っています。その間、1995年から二年ほど中国へ留学し、鄭魁山先生、石学敏先生、李世珍先生などの下で研修させていただきました。これまでに35年ほど中医学を学んできましたが、未だ自分が納得する中医鍼灸には辿り着いていません。

中医学は「弁証論治」に始まり、「弁証論治」に終わるといわれます。しかし、その「弁証論治」も必ずしも確立されたものではなく、そこに中医学の可能性と懐の深さがあると私は考えています。さらにそれは、科学的ではないという問題を、常に孕んでいます。それを解消したく、心理学の勉強を始めました。見えないものを可視化するのが心理学の手法であり、中医学を科学化するためには、心理学の手法が必要と考えたからです。これもまた、15年ほど続いているのですが、未だ自分で納得できる手法には辿り着いてはいません。

私は中医学に基づく、中医鍼灸院として治療を行っていますので、どうしても中医学の治療原則に拘ってしまいます。いろいろな視点から病気を捉えていくこともまた患者様にとっても学術的にも必要なことだと思います。そう考えますと、自律神経的な方面から、免疫学的な方面から、心理学的な方面からなどいろいろな捉え方もまた必要なことではないかと思えます。それは、中医学を科学化するという過程でもあります。

三焦鍼法は、もともと認知症の予防と治療という目的で開発されたものだとお聞きしています。三焦鍼法は「三焦気化失調＝老化説」という病理仮説の下「三焦の気を動かし、三焦の血を整え、後天の本を助け、先天の元を培う」という治療効果を目的としています。そのため、三焦鍼法の治則は「益気調血、扶本培元」とされています。ここで重要なことは、高齢者は様々な病気を持っており、多臓腑の問題を有していることから、一般的な臓腑辨証では、対応しきれない、そこで、三焦鍼法という考え方が必要になったのです。また、三焦気化失調は、あらゆる病気の発生発展過程に生じる病理現象です。そうだとすると、あらゆる病気の症状を引き起こしている病理現象と考えることもできます。

最近、三焦鍼法を様々な病気に応用していこうという試みが行われています。これまで検討されてきたメンタル疾患やコロナ後遺症が、その治療原則に合致しているので、効果があったのだろうか、それとも、別の理由で効果があったのだろうか？ また、どのような症状に対して効果があったのだろうかなど、つまり「弁証論治」はどうだったのだろうかという検討が必要ではないかと考えています。

三焦鍼法が、中医学的理論に基づいて開発された手法であることから、そのあたりの検討が必要かなど、私は考えています。その上で、西洋医学的な考察を加えていくことが、より三焦鍼法の価値を高め、信頼性も得られるものと考えています。三焦鍼法は、中医学理論の上に考案されたものであるということから、決して離れてはならないのではないかと考えています。

川並会長を中心に、新たな三焦鍼法の可能性が検討されています。西洋医学では対応し難い病気や症状に対して、三焦鍼法の可能性を探るというものです。鍼灸は経験医学であり、その積み重ねが中医学理論の基礎となっています。今回の試みもまた、経験の積み重ねであり、今回の試みが新たな発見や発展につながることを願って、結びの言葉とさせていただきます。（越智東洋はり院・院長）

「三焦鍼法とコロナ後遺症」

Gold-QPD 鍼灸師第3期生 宮本泰之
宮本鍼灸整骨院院長

私が東洋医学の道に入ったのは25年程前

大阪の地に開業して16年がたちました。経絡治療一辺倒だった私が三焦鍼法と出会ったのは今から10年ほど前のことでした。当初は認知症に対する鍼治療ということでこれからの世の中には絶対的に必要なことだと思い勉強会に参加しました。「自分の両親がもしも認知症を患い最後の日を迎えるときに看取る家族を認識できないのは不幸なことでは無いですか？」そう思い技術を身につけようと考え、「それはすべての人が同じなのではないか？」、「そうだとしたら、少なくとも自分が関わる人が同じような不幸を感じることはないように広めていくべきではないのだろうか？」そうした思いが起こり、それから認知症の方の施術をさせていただくようになりました。

症例数は少なかったですが確実に脳にアプローチできているのではないかと感じるようになりしました。特に記憶力の改善がみられることが多かったと思います。ある患者さんに往診で伺っている時に最初は名前を覚えてもらえず毎回「誰や？」と言われていました。何回か訪問させていただいていると名前を覚えてもらうことができ、一週間前の会話で「来週書類を持ってきます。」といったことに対して一週間後に「書類は持ってきたんか」と患者さんから言われました。そのときは私が書類を持って行くのを忘れたという失態をしてしまいましたが、やりとりと内容を覚えているということもあり記憶力に対して改善がみられていることを実感する出来事でした。

私の母親に認知症の疑い

病院で検査をして軽度認知症でしょうと言われました。最初に思った身内に認知症が起こり家族を認識できない不幸が訪れないように治療を行ないました。三焦鍼法を施術する毎に頭がはっきりしてくると本人は言っていました、易怒性が一部の対象者にみられるようになっていました。その後転倒により股関節を骨折し入院、手術とリハビリで怪我が回復していくのと共に認知症の症状も改善していききましたので私の施術は終了しました。

新型コロナウイルス感染症とコロナ後遺症

2019年新型コロナウイルス感染症が広まり世界的なパンデミックが起きました。初めは新型コロナウイルス感染症に対する治療法はないものかアプローチ方法を探しました。中国では配穴などの治療法が提案されていましたがよく考えれば近づくことができない患者さんに一鍼灸師ができることなどあるはずもなく新型コロナウイルス感染症を治療する機会などありませんでした。しかし、機会があればやってみたいという思いから発熱の治療は続けました。その後、世の中はコロナ後遺症が流行し多くの患者さんが体調不良に苦しんでいるという現状が起きました。コロナ後遺症は、世界中で問題となっている疾患です。しかし、未だ病因論が定まらず、適切な治療法も見つかっておりません。そんな折、2021年10月に川並汪一先生から連絡をいただき「コロナ後遺症の患者さんを診てくれなにか？」というお話でした。この患者さんが私にとってコロナ後遺症第一号の患者さんになりました。この患者さんはブレインフォグなどの脳へのダメージが強く現われていました。認知症の治療をしているときから脳へのアプローチとして三焦鍼法は有効だと実感していたためブレインフォグなどの脳への効果は期待できました。それからこの第一号の患者さんと二人三脚のような治療がスタートしていきました。治療後は元気になり動いてはダウンするということの繰り返しがあり、体力の底上げが重要だと思い根本から元気になるように治療することと脳活性化法である三焦鍼法を織り交ぜ独自スタイルに変更しました。患者さんを通してコロナ後遺症のことを学びだすと非常に難しい状態だと感じられました。その患者さんから沢山のことを教わりながら治療を進めていくと試行錯誤の末に刺激量の調整に微妙なコツのようなものが感じられました。幸いにも患者さんから施術に対する感覚や情報も頂けたので良かったのだと思います。三焦鍼法は脳血流量を改善しブレインフォグなどの症状を軽減していく一つの選択肢になると実感しました。三焦鍼法における脳へのアプローチについては「症状が重いほど刺激量を強くシャープにした方が反応が良い」と思いました。ただし、倦怠感が強い場合には三焦鍼法以外の配穴にも微細な刺激量の調整が必要だとも感じました。その後コロナ後遺症の患者さんが一人増え、二人増えとし現在では20名ほど診させていただきました。一人一人の患者さんを診ながら東洋医学の基礎である「病気を診ずに人を診ろ」「病気を治療するのではなくその人に必要な治療をきなさい」という教えがまさしく正しい、と感じました。そうこうしながら後遺症の治療をする上で同じような症状を訴えられ共通するところが多いものの、その効果には微妙に差があるため、治療に関してはそれぞれに違いが出るのが難しい要因の一つであると思いました。

施術させてもらった20名の患者さん

年齢は10代～60歳くらいまでで比較的若い人が多い印象を受けます。今のところ高齢者で後遺症の患者さんは診たことがありません。世の中の話では女性に多いと言われているが当院では確かに女性の方が多いものの、それほど顕著な差はないように感じます。

当院に来られる患者さんも当院がファーストチョイスではないため、今までに色々な治療をされてきている。多くは内科、心療内科、耳鼻咽喉科、脳神経外科など最近では後遺症外来を受診されてから当院に来院されている。当院に来られる経緯としては三焦鍼法を行なっている治療院をネット上で調べて来られることが多い。ただ、遠方のため継続できない方もおられ一度だけ施術させてもらった患者さんも多い。

治療法は三焦鍼法の基本配穴（Gold-QPD 鍼灸師に共通した6穴9鍼）と捻転法を用い、さらに症状に応じて追加配穴としてその患者さん毎にその都度加えた。中でも多く用いたのは百会・四神総であった。初診時はお互いが慣れていないため手探りで行ないながら刺激量を調節し刺激は軽めで行なった。刺激を加えた後の反応を観察してもらい後日確認し徐々に刺激量を増やしていった。

刺激が加えられるようになってくると症状も軽減してくる感じでした。寝たきりの患者さんには、まず接触鍼を行いその後に刺鍼するという二段階で行なうケースもありました。その場合の三焦鍼法などは非常に優しい刺激で行ないます。

多彩な症状が多様な頻度で出現

印象としてイギリス株と呼ばれていた時期のコロナではブレインフォグなどの脳症状が多かったが、オミクロン株と呼ばれる時期のコロナでは倦怠感が症状としては多かった。だからといってイギリス株の時期に倦怠感の症状がないわけでは無く、またオミクロン株の時期にブレインフォグなどの脳の症状が無いわけでも無かった。

全体的な印象としては倦怠感を訴えられる方が最も多かった。ただ、倦怠感に関しては倦怠感の改善はわかりにくくいつまでも症状が続く印象だった。しかし、自分でできることが増えたりできる時間が長くなっていったりというような改善の仕方をするように感じた。途中悪化することもある。特に倦怠感や脳疲労などは精神的動揺を受けた時や疲労時に悪化しやすいように思えた。

現在報告できる症例数は17名であるが、顕著な改善がみられた患者さんは3名程度で、残りの半数は改善がみられるものの、悪化と軽減を繰り返すような状態であった。中には改善のみられない患者さんもいた。ただし、6回以上継続された患者さんでは改善傾向が見られることが多いように感じ、緩和治療として役立ったのではないかと思う。

コロナ後遺症の治療に関して

治療は、鍼が良いとか、西洋薬が良いとか、漢方薬が良いとか、耳鼻科が良いとかはわかりません。当院に来院された患者さんは色々なことを試されてからやっつけてこられます。それは、誰も特効薬的な治療を持っていないということではないだろうか？

私が鍼灸師だから言うわけではないが、三焦鍼法も一つの選択肢に加えるに十分な施術といえるのではないかと思う。もちろん鍼灸だから三焦鍼法でなら必ず完治すると言えるわけではない。しかし、他の医療と手を組んで行なうことで苦しんでいる患者さんをいくら

かは救えるのではないだろうか？

私が施術している患者さんで服薬されていた薬に効果がないと服薬するのをやめた患者さんが数名いました。鍼治療をしていて身体は元気になってきても症状の改善がみられなかったために、病院で処方された薬をもう一度飲んだ後に症状が改善したケースがありました。そのことから、私は薬も効果が出るためには効果を出せる身体が必要なのではないかと考えました。その身体作りにも鍼灸は効果が期待できると思います。

三焦鍼法を行ない気血めぐりをよくすることは身体にとって非常に有用なことだと思います。

その巡りの改善が症状の改善につながっていると考えています。後遺症の症状は長引くものばかりです。副作用のない鍼治療が長引く後遺症の症状に少しでも役立てるように症例を増やし、患者さんに寄り添い還元できるようにこれからも努めていきたいと思っています。

「Gold-QPD 鍼灸師取得後 10 年経って思うこと」

— 三焦鍼法の原理に立ち換返る —

Gold-QPD 鍼灸師第 3 期生 村橋健三

三鷹 鍼灸ふしぎ堂院長

私が「ゴールドコース」にて三焦鍼法専門鍼灸師資格認定証(新名称)を取得したのは 2013 年 11 月だった。当初は資格取得条件の臨床 5 症例の報告提出に戸惑い苦労した。認知症の患者さんが見つからないのである。最近記憶障害を感じるようになった患者さん 1 人目を何とか見つけた。引き続き三焦鍼法による治療効果のあった慢性疼痛高齢者 2 名、うつ 1 名、適応障害 1 名の報告をした。

幸運だったのは、最初の記憶障害を発した患者さんが実は精神科にて統合失調症の確定診断を受け、当時も通院中であったことである。そして治療初期に劇的な効果があったこと。患者さんは中学生の頃に神経症を発症しており、叔父さんと弟も統合失調症と診断されていた。中医学的に「先天の不足」が推定された。三焦鍼法が認知症以外の他の疾患にも効果がありそうだとそのとき直感し期待したのである。

三焦鍼法は「益気調血・扶本培元鍼法」との韓景献（開発者）先生の言葉

「三焦の気を動かし、三焦の血を整え、後天の本を助け、先天の元を培う」という効果があり、「老年性認知症（アルツハイマー病）患者の知能状態と生活能力を改善することができる」という。兵頭明先生は「高齢者は一部が弱って発症しているわけではない。加齢によって全身が弱っている（フレイル）。その全身を包んでいる三焦（第 6 腑）を強化して症状を改善するのが三焦鍼法です」と解説しておられた。原理はわかった。ならばその応用である。中医学的には「異病同治」、現代医学的には「ドラッグ・リポジショニング」みたいなもの。

認知症（記憶障害）以外に何の症状に対しても効果が期待できるのではないかと考えた。

認知症以外の病態に悩む患者

例を挙げれば、慢性疼痛の高齢者2名は、加齢により全身が弱って回復が進まなかった。高齢者のうち1名は12回の1クール後寛解した。残り1名も時間差はあるが、みな症状が改善し今は来られていない。

うつ1名は、燃え尽き症候群（バーンアウト）により心身衰弱がひどかった。

適応障害1名は、子供のころから自分の心の中に別の自分がいて、対話していた。大人になって「益気調血・扶本培元鍼法」の適応対象になりえると判断し治療したところ、良好な結果を得たので、臨床報告として提出して資格を得ることができた。

「三焦鍼法」は病名にとらわれず、「益気調血・扶本培元鍼法」の基本原理さえ理解できれば、応用の幅はかなり広く、鍼灸院における日常の治療に充分応用できると実感している。治療中の患者さんとの会話で、「先生、私の知り合いが最近認知症になったんですよ。鍼で認知症の治療ができるんですかね?」「〇〇さんに今やっているのがその鍼治療です」「えー!」ということはしばしば起こっている。

「三焦鍼法」を臨床応用して感じたことは、「益気調血・扶本培元鍼法」とは人間が本来持っている「ホメオスタシス(恒常性)機能」に働きかけて賦活化するのではないか。障害を受けた部分を修復して現状復帰させようとする力。言い換えれば自己修復力(自分で自分を治す)を活性化するのではないかということ。そんな人間の根源的な部分に作用しているような気がしている。

「コロナ後遺症」の患者さんの2症例

この疾患では「ブレインフォグ」を主症状とする場合は適切な治療法がない。特徴は極度の倦怠感、記憶障害、精神の落込み以外にも症状が多岐にわたり、患者は一体いくつの診療科目を受診すればいいのかわからなくなるほどである。ところが、三焦鍼法はそれらの症状を時間の経過とともに、万遍なく軽減させることが出来る。(詳しい臨床報告は準備中)

始まりは1本の電話。いきなり「サンショウシンプウで治療していただけますか?」とのことだった。患者さん捜しに苦労した身にとって患者さん自身の口から「三焦鍼法」という言葉を聞いたのは初めてだった。確かに川並先生から「コロナの後遺症にも効きます」というニュースは受け取っていたが。

第1例(44歳女性)

2月初旬コロナ感染 退院後から後遺症を発症し継続治療中。9月末の来院時は、母親に付き添われ、サングラスをして杖を突いてフラフラして足元がおぼつかない状態だった。問診時は、8割は母親が説明し、2割を本人が補足した。この風景は見た記憶がある。認知症の患者さんが娘さんに付き添われて来た時とそっくり。40代の目の前にいる女性の患者さ

んは、「浦島太郎の玉手箱」をあけて実は 80 代の心身になってしまったかのようなようだった。

話を聞き終わった時点で、コロナ後遺症治療が初めてなのにも係らず、これまでの臨床応用の経験から治療のイメージは出来上がっていた。

以下のように治療方針を説明した。

「これまで大変でしたね。ご指定の「三焦鍼法」は多分お役に立てると思います。現在の状態を例えるなら、あなたは今のウクライナのような状態です。コロナによる攻撃は終わりましたが、インフラは破壊され、ライフラインはズタズタ、体全体が機能不全に陥っています。

「三焦鍼法」はご自身の「復興力」を支援する治療です。薬などを外部から体内に入れることを一切行わず、ツボを刺激してご自身の「治す力」をバックアップしていきます。沢山ある症状をいちいち追っていくことはしませんし、どこから改善していくかもご自身の「復興力」次第。今ある症状を今後毎回全てチェックして、改善具合を確認しながら治療を進めていきましょう。」**「益気調血・扶本培元鍼法」**をコロナの症例に当てはめて、患者さんにイメージしやすく説明した。

<結果>

9 月末の初診時、自覚症状を上げてもらおうと 23 項目あり、うち「強く感じる」と答えたのは 18 項目あった。5 か月後の 3 月現在、「強く感じる」と答えたものはゼロ。「ほとんどない」「消失した」は計 15 項目とかなり回復している。今は単独で来院し、職場復帰（介護福祉士）も検討し始めている。

第 2 例（44 歳女性）

2021 年ワクチン 2 回目接種後若干のシビレが続いた。翌 2022 年 1 月家族がコロナ罹患。9 日後 PCR 検査をすると「陰性」だった。6 月に手足のシビレ、7 月に不眠、8 月にブレインフォグ症状が始まり倦怠感で動けなくなり、食事も介助が必要となる。通院不能となり、電話で医療相談を受けご主人が薬を受取に行く。本件も「三焦鍼法」治療を指定してきた。往診すると、布団からやっと起きている状態。姿勢を保つのもつらそうだった。目もうつろで、問診も一問一答、聞かれたことしか答えられない。何とか現状 20 項目の症状があることを確認し、軽度の治療を行い、今後の治療方針の説明と週 1 回の往診を約束した。

<結果>

5 診目 「ブレインフォグが半減した。お蔭で家事も少しできるようになった」

6 診目 当初 20 項目中 13 項目「強く感じる」と答えていたが、3 項目まで減った。半年ぶりに近所のスーパーに買い物に行けた。

8 診目 耳鼻科で受けた B スポット治療（鼻腔粘膜を薬剤で刺激）の副反応による上肢、指先のシビレが続き家事ができなくなり、評価スコアは軒並み悪化。現在は「三焦鍼法」を継続しつつ副反応からの回復待ち状態。前症例 1 に比べると、驚くほど早期に効果が発現した。「もっと良くなりたい（患者さん談）」と思って始めた B スポット治療で思わぬ横やりが入ったが今後の改善に期待したい。

この患者さんは「コロナ陰性」の判定だったため、コロナの後遺症という意識はなかった。(ご自身は今でもコロナワクチン後遺症だと思っている)。手足のシビレで当初は神経内科を受診したが異常はないと言われた。不眠が始まったので、心療内科を受診して入眠剤と軽度の抗うつ薬を処方された。やがて強い倦怠感で起き上がれなくなり、コロナワクチン後遺症だと思い専門診療科のある国立病院に問い合わせると予約は1か月半後だといわれた。仕方なく、他のオンライン診療や漢方、鍼灸を試したが効果がなかった。やっと予約の日が来てきて介護タクシーを使い受診したが、服用した薬に効果は感じられなかった。次の予約日は3週間先だった。自殺念慮が生じた。

この患者さんともある方を通じて「三焦鍼法」の存在を知ったとわかりました。患者さんによれば、「リンゴちゃん」と呼ばれていたその方は、実は川並先生の元患者さんで、コロナ後遺症を三焦鍼法で治療してもらいその効果に感激し、積極的にSNSなどを通じて「三焦鍼法」を広報されているようです。実にありがたい応援団です。

川並先生が認知症治療の鍼として日本に種をまいて、やがて精神疾患にも、コロナ後遺症にも有効な治療に育ち、今後は我々Gold-QPD 専門鍼灸師が、さらに治療対象を広げるように活動していきたいと思います。もう患者さんの側から「三焦鍼法」を指名して来る時代になったのですから。

記憶に残った患者さんの言葉

*資格取得時に、始発電車に乗って治療モデルになっていたいただいた60代女性の言葉

「あの時頑張って12回の治療を受けたおかげで、今は月1回の治療で済んでいる。あれがなければ、今も毎週治療を受けていたかもしれない。」(当時)

*統合失調症と診断されていた患者さんの言葉

「なんなんだ、これは！心の霧が一気に晴れた。今まで頭にお釜をかぶって生活してきたんだと今わかった。こんなスゴイ治療があったんだ。」

*重度の生理痛の患者さんの言葉

「始めは五十肩の治療を受けていました。十代の頃から生理痛がひどいと話したら、それも治してもらいました。今は更年期障害の予防の治療を受けています。母が苦しんでいたのを知っているので。アンチエイジングの鍼なんて素敵です。」

*ターミナルケア(食道がん)の患者さんの言葉

「訪問医の先生が『処方したモルヒネが全然減っていませんが大丈夫ですか?』と聞くので、週2回鍼灸治療の往診を受けているから問題ないです、と答えたら、是非治療現場を見学したいと言ってきたけれど、先生、いいかしら?」

*コロナ後遺症の患者さんの言葉

「ここに来るまでが長かった。始めから三焦鍼法の治療を受けていればよかった。オンライ

ン診療を受けているクリニックの先生は、私の話を聞いて、そんなに効果があるのなら自分の患者を紹介したいと言っていた。医療現場もコロナ後遺症の治療には苦勞していることがはっきりとわかった。これから私も三焦鍼法体験を SNS で発信し、多くの人に知ってもらおうと思います。」

*川並先生から治療を引き継いだ強迫神経症の患者さんの言葉。

「私は三焦鍼法と出会えたことを本当に幸運だと思っています。日本から三焦鍼法がなくなったら困ります。三焦鍼法は存続し続けてほしいです。もし自分に妻子がいなければ、会社を辞めて三焦鍼法を習得しに行き、存続に力を貸したいと思うほどです。」

[III] New Concept : Sanjiao Acupuncture and Limbic System

「三焦鍼法の大脳辺縁系への関与と量子力学」

新宿漢方クリニック院長 川並汪一

この 3 年間は新型コロナ感染症によるパンデミックで大変でした。急性期を生き延びても多様な症状が加わる患者が出現した。これらは、急性症状の遷延型か、あるいは後遺症なのかが明らかでないまま long COVID、コロナ後遺症などと言われている。

そんな折、Gold-QPD 鍼灸師の宮本泰之氏や村橋健三氏が、この年報に特別体験を寄稿してくれた。私自身も新宿漢方クリニックで 50 名を越える long CPVID 患者を三焦鍼法で対処してきた。

一方、2010 年以来継続して治療を実践している対象は認知症です。Gold-QPD の認定鍼灸師による多彩な報告はすでに皆さんご存じのとおりです。上記 3 疾患とこの認知症の患者には、三焦鍼法が共通して有効である事実が把握できた。

コロナ後遺症に共通する主症状には、

1. 急性期の発熱、呼吸器症状、倦怠感などで致命傷になることが稀ではなく、有名な芸能界の人たちも犠牲となった。
2. 慢性期に長引く倦怠感（慢性疲労症候群）、呼吸器症状（呼吸苦、咳、痰）、循環器症状（動悸、胸痛）、不眠、不安、味覚障害、難聴など五感の異常、やる気の消失、ブレインフォグ（頭重感、もの忘れ、集中力の喪失など）、筋肉痛（線維筋痛症）、頭痛、消化器症状などがある。その出現頻度や重症感は患者により多彩である。このような自律神経の不全症状が緩解せず、休職・退職に至る若い人も多く人生を左右する悩みとなっている

る。

3. 三焦鍼法による治療対策

- 1) 遷延化して上記の主訴に悩む患者には、三焦鍼法施術の意義（ガイドライン）を丁寧に説明し施術の同意を得た。最近では三焦鍼法の有用性がネット上で広く伝えられておりその評判を聞いて外来に来る人が増えつつある。
- 2) これらの患者は、一般の人と比べ鍼の刺激に敏感な人を見かける。そこで最初は軽めの刺激で反応をみつつ、鍼の太さと捻転法を加減することが大切である。毎週1回の頻度でまず5回の刺激を実施すると予後の良し悪しの目安が推測できる。
- 3) Gold-QPD 鍼灸師用標準カルテを製作した。呼吸器症状（咳、のど痛、喀痰、呼吸困難）、循環器症状（胸痛、動悸、不整脈、起立性低血圧）、消化器症状（腹痛、食欲不振、嘔吐、下痢）、泌尿生殖器症状（性欲減退、頻尿、失禁）など各種症状の強さを visual analogue score (VAS) で記載し、経時的変化を明らかにすることで、治療効果を VAS 計測値の変動で一目瞭然となった。主訴のいくつかは経過中に一時的に悪化することもよくあるが、徐々に落ち着く傾向が見える。
- 4) 不安、不眠、イライラなどには、ベンゾジアゼピン（BZD）睡眠鎮静薬や抗うつ薬が処方される。これらの薬剤の処方に慣れた専門医も少なくないものの、最大の欠点は BZD 患者は耐性を獲得することで増量しないと効果を感じなくなることである。抗うつ薬も途中で投薬を突然中断すると、人によっては耐え難い苦しさの離脱反応に悩まされる。現時点でこれらリスクの高い向精神薬に代わる安全な薬がほとんど無い（メラトニン・オレキシン受容体関連薬）。この副作用リスクを避けるため、私共は三焦鍼法を採用する。さらに漢方薬を介在させることで立派な代替療法となってくる。この領域では医師との共同作業「三焦鍼法と漢方の併用」が理想的であると言えよう。
- 5) 重症後遺症患者のなかには、耳鼻科の B スポット療法、精神科の rTMS を試みる人も少なくない。いずれか単一の治療法で一時的に回復する人が居るように見える。しかし、その治療経験を経ても満足できる治癒を得られず、三焦鍼法を求める人が増えつつあるのも確かである。

世界的に推奨される合理的治療法は未だ見出されていない。三焦鍼法は現時点で最も優れた治療法の一つと言えるかも知れない（干ばつに困って我田に水を引くわけではないが）。今後それぞれの治療法の役割を見定める必要がある。そして、適切な治療法が確立されることを望む。

4. 三焦鍼法の立ち位置

三焦鍼法は当初、認知症 BPSD の対策用として採用され、最近では MCI の認知症予防用にも広く適用されている。この治療上の効果判定に MMSE とよばれる検査法があり、改善経過を見る絶好の手段である。われわれの体験で興味深いのは、海馬領域の血流復活や、機

能上昇を示唆する神経細胞の一時的修復を認めることである。しかし記憶力すなわち認知能の改善には限度があることが明らかとなった。

注目すべき効果としては、①家族の顔を思い出す、②介護のヒトにも感謝の気持ちを表し、③表情に明るさを伴う、④怒りやイライラなどを癒すなど、「感情の揺り戻し」、「対人関係の改善」「老年症候群の緩和」など素晴らしい結果をあげることが出来る。つまり、理性的な「感情、感覚」の復活や「うつムード」の修正により、「人間性や社交性の復活でQOLが改善する」事実が注目を集めることになった。

メンタル疾患においても、うつ病、各種神経障害（パニック、不安、強迫）などが徐々に緩和される傾向にある。つまり感情、ムード、感覚などの活動修正とその向上が明らかである。これは大脳辺縁系の視床の反応が修復されることを意味し、また随伴症状である自律神経の不調状態「dysautonomia」が着実に改善することに一致する。この自律神経調整作用は、視床下部領域に出入りする神経回路の反応が適切に修正された結果である、と言えないでしょうか。

認知症、コロナ後遺症、メンタル疾患における三焦鍼法の治療効果をまとめてみた。

胸部、腹部、骨盤内臓器の不調に随伴する自律神経機能を調整する機能が垣間見える。

<u>緩和治癒傾向を示す諸症状</u>	<u>作動する神経と三焦鍼法</u>
もの忘れ、集中力と意欲の減退、	大脳辺縁系 視床・海馬
五感の違和感（味覚消失、聴覚異常、視覚異常）	大脳神経 脊髄由来末梢神経
呼吸器症状（息苦しい、咳、喀痰）	胸部神経叢 上焦
循環器症状（動悸、立位低血圧・頻脈）	胸部神経叢 上焦
消化器症状（腹痛、食欲便通の異常）	腹部神経叢 中焦
泌尿生殖系症状（性欲減退、頻尿、失禁）	骨盤神経叢 下焦

5. 三焦鍼法効果と量子力学との関係

機能異常を示す上・中・下焦の諸臓器からの刺激は、脊髄を経て大脳辺縁系（扁桃体・海馬・視床・視床下部）に伝達される。そのうち記憶については、海馬からの神経回路を経て短期記憶が長期記憶に転換され前頭前野の皮質に蓄積されるものと見なされる。

恐怖や攻撃など驚愕する感情は、当初扁桃体で受け止めて処理される。失われた「やる気、やさしさ、憎しみ、悲しみ、嘆きなど」の認識は、感情中枢の視床の回路を経て大脳皮質で調整されるといわれる。この詳細なプロセスは先端医学においても未解決のままである。老年症候群をふくむいずれの病態でも認められる自律神経系の不調和は、視床下部を

通る神経回路において、経絡を介する鍼刺激の物理的的刺激で調整されると見なされる。ここで経絡と神経回路がどのように交流するかはわからないが、経絡の波動が反映するのではないか、と思いたい。

三焦鍼法による刺鍼刺激の病理学的裏付けは、顕微鏡組織学的あるいは先端物理学的に説明されておらず、実践体験論に基づいて納得されているに過ぎない。ニュートン力学やアインシュタインの相対性理論でも説明されてはいない。

私の個人的考えでは、経絡刺激が大脳辺縁系に及ぼす影響は、量子力学の言う「波動の干渉縞」で象徴される共振作用に基づく現象であろうと、勝手な想定をしている。つまり乱れた自律神経トラブルが、波動エネルギーで時ほど枯れるものとみなしたい。具体的にどのようなかわかりが存在するのかわかりは不明であるが、三焦鍼法の機能をよりの確に解明できる日が来ることを期待したい。

〔IV〕 三焦鍼法活動の元拠点

「街ぐるみ認知症相談センターの誕生と現状」

日本医科大学武蔵小杉病院 同センター長 小澤明子

日本医科大学「街ぐるみ認知症相談センター」

地域において認知症に関する情報提供や相談支援を行う施設です。2007年に文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業・社会連携研究推進事業に採択され、同年12月に設置されました。研究代表者は、当時日本医科大学老人病研究所所長（現日本医科大学名誉教授）川並汪一先生でした。その5年後の2012年12月、日本医科大学武蔵小杉病院は川崎市の認知症疾患医療センターの指定を受けました。街ぐるみ認知症相談センターはその相談部門に位置づけられることとなりました。

当センターは、地域市民やその家族が、認知症についての疑問や不安などを相談するためにあります。地域のニーズに合わせてさまざまな取り組みが行われています。具体的には、認知症に関する講座や認知症の早期発見につながる認知機能検査の実施、認知症の人を対象とした日々の活動や生活支援の情報提供、家族や介護者のための相談会（コロナ禍後は休止中）などが行われています。地域に根ざした取り組みであるため、住民の認知症に関する意識を高めることにもつながっています。地域全体で認知症の人や家族のQOL（生活の質）を向上させることが期待されています。

新型コロナウイルス感染症の影響

私たちの生活は大きく変化しました。以前とは異なるライフスタイルを取り入れ、新しい生活様式に適応することが求められています。これは、当センターにおいても同様です。相談方法や支援の仕方についても大きな変化が求められています。そこで、武蔵小杉病院に物忘れで受診され認知症と診断された患者とその家族を対象とした電話相談アウトリーチ支援の研究を開始しました。支援方法の体系化とその効果検証を行うことで、新しいニーズに合わせたサービスや支援策を提供することを目的としています。

私は2021年1月から赴任

武蔵小杉病院に物忘れを主訴として受診される方は数多く、1日5件から多いときで10件以上の初診者数です。医療機関自体（外来、入院患者）に全く未受診の重度の認知症の方も数多くいらっしゃいます。私自身は若年で、歴代のセンター長の先生方に比して実績も経験も少ないのですが、数多くの患者さんの生活をサポートすることを使命として日々診療しております。単に認知症と言っても患者及びその家族の気苦労は想像を絶することも多いのです。一人でも多くの患者さんが安定した生活を送れるように、診療してまいりたい所存です。

なお、東京都健康長寿医療センター研究所と共同研究を行い、『認知症の人と家族のための心理支援の手引き』を作成いたしました。街ぐるみ認知症相談センターのHP上で公開しているためご参照ください (<https://soudan8.wixsite.com/nms-soudan>)。



武蔵小杉病院 認知症センター 歴史

2007年9月	文科省 社会連携研究に採択
2007年12月	街ぐるみ認知症相談センター設置、初代は北村伸先生
2012年12月	認知症疾患医療センターに指定
2018/4月	三品医師着任(脳神経内科部長を兼任)
2021/1月	山崎着任



街ぐるみ認知症相談センターでの日常業務

街ぐるみ認知症相談センター（以下、センター）は、「認知症になっても本人や家族が住み慣れた地域で安心して暮らすためのネットワークを作ること」を目的に、日々、地域で暮ら

している方々からの幅広い相談をお受けしています。

一番の特色は、無料のもの忘れチェックで、認知症に散見される認知機能低下を早期に発見するための定期チェックを受けられる所です。相談者の年齢層は60代～80代が最も多く、男女比は女性の方が多くなっています。

相談対応のスタッフは担当が臨床心理士、相談補助に分かれており、それを事務職が下支えするという仕組みになっています。スタッフの年代は30代～80代と幅広く、特に上下関係などなく、それぞれの持ち味を生かしながら業務に当たっています。相談業務の場合は、多くは臨床心理士と相談補助のスタッフが連携して行います。物忘れのチェックにいらした方は、相談補助のスタッフの相談から始まり、その後臨床心理士の面談に進みます。相談の流れは「もの忘れ相談」の図をご覧ください。

相談補助は、最初の利用同意の手続きから、生活状況やもの忘れの経過を聞き取り、タッチパネル式もの忘れの実施までを担当します。シニアスタッフで構成されており、相談者の年代と概ねマッチしています。相談者にとって、同年代の人との語らいは、老化や身体不調の共感を得やすい安心感もあるのか、相談関係を構築するのに有効である場合が多いと感じます。時には、嫌々連れてこられる方もいて、ご家族がもの忘れを話す中、水を向けても最初は全く話に乗ってもらえない事もありますが、同年代だと心を許してくれるのか、ポツリポツリと語り始めるケースもありました。ご家族同伴の場合でも、あえてご本人が語れるように配慮するため、相談者はかなりリラックスした状態になっており、臨床心理士の面談の頃には、すっかり話す姿勢になっていることが多いです。

臨床心理士の役割は、主に神経心理学的な認知機能のアセスメントです。会話や MMSE (Mini Mental State Examination/認知症のスクリーニング検査) を用いて、認知機能低下の内容と程度を見立てます。検査結果はその場で出るので、ご説明して、定期チェックをお勧めしたり、認知症予防を必要があれば病院受診についてお勧めし、かかりつけ医がいれば情報提供を行い、専門医につなげてもらうよう働きかけたりします。受診をためらう方もいますが、理由を丁寧に説明したり、ご本人が受診に納得できる理由を一緒に考えたり、できる限りご本人の意思が尊重できる形を模索しています。

近隣では、このセンターの存在が知られるようになったこともあり、常識としても早期発見、早期治療の知識が広まっております。ご自身のもの忘れチェックという目的で定期チェックに来所される方や、少しの異変にご家族が「念のため」と勧めるケースが増えてきたように思われます。しかし、まだまだ受診を拒否される方が多いのも現実です。もの忘れを介して、その方にとって何が良いのかをご本人やご家族、支援者の方と一緒に探していける場でありたいと、スタッフ一同思っています。

2007年に文科省の助成金で、旧看護学校図書室が「街ぐるみ認知症相談センター」に改築された。それまで旧武蔵小杉病院C館2階（老人病研究所）に設置してあった緒方知三郎先生の胸像が、同所玄関前（写真）に移動された。

2021年に武蔵小杉病院再建計画が実現しつつあった。私は会長として、胸像の移動先を求めて他大学や心当たりのご親戚などに次々と連絡した。しかし、いずれも諸般の事情で引き取り交渉は失敗した。新築工事はほとんど完了する夏場の時期に至った。

上田淳当社团監事のアドバイスで一般財団法人緒方洪庵記念財団（大阪府中央区今橋三丁目2-17）へ直接電話連絡を試みた。同財団事務局長の川上潤氏から快諾があり、大阪から車で直接引き取りにお出で頂きました。そのお蔭で現在緒方知三郎先生の胸像は祖父に当たる緒方洪庵さんと一緒に居られます。機会がありましたらどうぞお出かけください。



（令和3（2021）年7月8日川上事務局長と旧相談センター前にて）

〔V〕一般社団法人老人病研究会としての事業

令和4年度事業報告

健康長寿認知症 Gold-QPD 実践セミナー講座並びに同日開催の市民公開講座は オンライン形式に変更して行いました。

1. 高齢者・オンライン認知症 Gold-GPD 実践セミナーの開催（受講者の自宅で受講）
開催日時：年4回（春・夏・秋・冬） 開催場所：公衛ビル1階会議室(実践トレーニング)
2. 専門書発刊 1)編著者川並汪一：「鍼灸ルネサンス」（国書刊行会 発刊令和4(2022)年4月19日） 2)著書推薦者：坂本歩、小林光俊、工藤翔二(結核予防会会長)貫和敏博（東北大名誉教授） 3)発刊を控え全国の Gold-GPD、鍼灸専門学校、関係者にチラシ計2500枚配布中、セイリン（株）600、東京衛生学園専門学校300、神奈川衛生学園

300, 敬心学園 300, 呉竹学園 300、その他（新潟、栃木、愛媛、広島など）4)同時に Gold-GPD 鍼灸師全員にメールにて著書の購入を勧める。学生と鍼灸師の Gold-QPD 受講生を全国レベルで募集開始する。5)衛生学園との委託事業模索は失敗に終わる。

3. 中間理事による新規オンライン化作業の経過報告 1)新規オンライン講座 ①専門学校学生用・鍼灸師用・医師用 (ID、PW 発行) ②ブロンズコース (従来の講座) とシルバーコース (NetLibrary 映像 20 種) 両コースを修了した者が手法トレーニングにすすむ。③生涯教育研修コースは検討課題。IT 補助金獲得は失敗 (中間理事の好意)。
4. 医師相手の Gold-GPD 実践セミナーに医師補修用の特別実習をセイリンに依頼 (セイリン本社の医療推進部係長西村直也氏と意見交換 4/15 午前 11 時半) 上司の小倉、内山両氏には「鍼灸ルネサンス」について会長から連絡済み。
5. セイリン・ズームセミナー開催 2022 年 10 月 30 日 (日) 13:00~15:00 「鍼灸ルネサンス」三焦鍼法の新しい世界 川並汪一会長 講演

「鍼灸ルネサンス」(国書刊行会 チラシ 2022 年 4 月 19 日発刊



「セイリンセミナー：三焦鍼法の新しい世界」 2022 年 10 月 30 日開催

韓景献編著 中国にて発刊



令和 5 年度事業予定

令和 5 (2023) 年度の一般社団法人老人病研究会の活動予定 (I~V)

1. オンライン「三焦鍼法実践セミナー」の開催確認
 - ① オンライン受付、オンライン授業 (半年間限定の自宅視聴)
 - ② Zoom ミーティング: 受講生自己紹介と対話会談 年 4 回; 各 2,5,8,11 月の第 3 日曜日
 - ③ 手技トレーニング: 取穴、捻転法施術、対人施術 (学生は見学)、テスト 年 4 回; 各 3,6,9,12 月第 3 日曜日 (東京都新宿区新宿 1-29-8 公衛ビル 1 階)
2. 「三焦鍼法実践セミナー」の今後
 - ① オンライン授業に「コロナ後遺症、メンタル疾患その他」の解説を補足
 - ② オンライン授業に「Gold-QPD 鍼灸師生涯教育コース」を追加 日常食事、サブリのアドバイス、健康長寿の諸課題、介護・看取りまでを含む
 - ③ ゴールドコース卒業者の資格を「三焦鍼法上級専門鍼灸師」と改称する。認定条件は 5 名以上の患者に三焦鍼法を各 12 回以上か、治癒までの 7 回以上の施術を行い その経過を報告する (標準カルテを使用、認定委員会に提出)。
 - ④ 病名は認知症、コロナ後遺症、メンタル疾患、生活習慣病、老年症候群 * 認知症では MMSE, NPI, N-ADL の数値の変化と共に経過を記録する。 * 患者の症状は視覚アナログ数値 (VAS ; 0~10) で比較し経過を記載する。
3. オンライン Gold-QPD 生涯教育講座の開講 Gold-QPD 鍼灸師は法人に入会することで以下の特別優遇策が提供される。
 - ① 生涯教育講座を含むオンライン全講座への参入許可
 - ② 年報、パンフ、YouTube などの優先的配布
 - ③ Zoom ミーティングへの参加許可
 - ④ 手技トレーニングへの参加許可
4. 紹介パンフレットの作成と YouTube (日本語版と英語版) の設定 三焦鍼法の概要を簡潔にまとめ、国内外に告知広報する。
5. 社団に新部門を設立する。
 - ① 広報部門の設立 社団ホームページ改修、三焦鍼法のパンフレットと YouTube を創作する。
 - ② 紹介斡旋部門の設立 (全国の地域市民のため Gold-QPD 鍼灸師を紹介)
 - ③ 月例運営会議を原則 Zoom ミーティング (毎月第 3 水曜日予定) とする。
 - ④ 事務に管理 2 部門を設立 (日常業務処理/三焦鍼法実践セミナー)



「三焦鍼法実践セミナー」受講のお勧め

「三焦鍼法とは何か？」

「気を益し血を調達しその流れを弾ませることで、持って生まれた精により免疫力と体力を培うことで健康長寿を実現する治療法」のこと。その「益気調血 扶本培元」鍼法は、受講し合格した Gold-QPD 鍼灸師にのみ許可される。「三焦鍼法」と“Gold-QPD キューピッド” はロゴと共に商標登録されており勝手に使用できません。

「三焦鍼法の手技とは？」

計6個のツボ（外関、足三里、血海、気海、中脘、臍中）を捻転刺激し上焦・中焦・下焦に存在する五臓六腑の機能を調整し増幅する手技である。

「三焦鍼法が効果を発揮する症状とは？」

- 1) 認知症予備群（MCIつまり老年症候群）患者のための認知症予防を担う。認知症行動心理症状（BPSD）の「怒りっぽさ」、「意欲の喪失」、「徘徊」、「暴言、暴力」を軟化調整する。一方「やる気、やさしさ、感謝」の気持ちを誘発する。大脳辺縁系（海馬、視床、視床下部、扁桃体）の機能調整に関与して見える。
- 2) メンタル不調（うつ、パニック障害、強迫神経障害など）を落ち着かせる。これも大脳辺縁系（扁桃体の）神経回路を健全な機能に調整して見える。
- 3) コロナ後遺症（long COVID）の循環器症状（動悸、胸痛）、呼吸器症状（呼吸苦、咳、痰）、消化器症状（食欲不振、下痢、便秘）、不眠、不安、五感の異常、やる気の喪失、ブレインフォグ（もの忘れ、集中力の喪失）、線維筋痛症の発症に関与する大脳辺縁系神経回路の異常を調整しているように見える。

「西洋医学的効果との違いとは？」

不眠・不安・うつなどの神経障害で必ず採用される向精神薬の一部には、依存性、耐性が付きまとう。そのため期待しない副作用を引き起こし苦勞することもある。三焦鍼法では、上記の諸臓器に深く張り巡らされた自律神経叢とその中枢に相当する大脳辺縁系の神経回路の不調に働きかける。基本的には副作用を認め難い。三焦鍼法の鍼刺激による効果は、大脳辺縁系領域の血流上昇、糖の吸収亢進、神経細胞の再生、遺伝子の賦活と同タンパクの産生を促すとのエヴィデンスに基づく。

（参考資料：鍼灸ルネサンス-国書刊行会 2022年発行）

「結論」

三焦鍼法の治療効果は、「大脳辺縁系と上焦（胸部神経叢）、中焦（腹部神経叢）、下焦（骨盤神経叢）の自律神経バランス調整に基づくもの」と推測される（川並）。

三焦鍼法実践セミナーの受講者へ

1) 今すぐに、オンライン受講を開始できる。

以下のバーをクリックし必要事項を記入し送信。事務局より鍼灸師、学生、医師向けの開始登録用紙が自動的に返送。写真と必要書類をそろえ、費用をカード決済すればオンライン講座を直ちに視聴できます。オンライン受講は「合計6ヶ月間有効」です。

2) オンライン受講中に時機を自由に選択できる。

Zoom ミーティングと手技トレーニングは、以下の計画表にある。この順序で自由に受講時機を選択できる（1年以内に完了のこと）。学生は手技トレにも参加可能です。但し卒業し国家資格を得てから、本格的な手技トレーニングを経てテストに合格すれば正式な Gold-

QPD 鍼灸師となります。 [一般社団法人老人病研究会のホームページ](#) ↘



「事前登録と受講開始申込」の手続きはこちら

実践セミナー受講費

実施セミナーの受講費						
	Net Library	Gold-QPDmoooc	Zoom質疑応答	医師用鍼灸特別 トレーニング	Gold-QPD 手技トレーニング	
学生	○	○	○	—	見学	40,000円
鍼灸師	○	○	○	—	○	80,000円
医師	○	○	○	○	○	110,000円

*Net Library:従来のシルバーコース（内容は改定中）

*Gold-QPDmoooc:従来のブロンズコース（内容は改定中）

2023 年度実践セミナー計画表

（オンライン講座はオンデマンド開放で半年間は自由に視聴できる。ただし他人との供覧は厳禁）

Zoom ミーティング（第3日曜日）

- *2月19日（日）18:00～20:00 終了
- *5月14日（日）18:00～20:00 終了
- *8月20日（日）18:00～20:00

- *11月19日(日) 18:00~20:00

新受講生の参加と退出の時間は自由、必須 18:00 の開始直後に2分間の自己アピール
 ル 講師自由参加の Gold-QPD 鍼灸師と対話

手技トレーニング(第3日曜日)

- 3月19日(日) 9:00~17:00 終了
- *6月18日(日) 9:00~17:00 終了
- *9月17日(日) 9:00~17:00
- *12月17日(日) 9:00~17:00

場所: 日本公衆衛生協会 1階会議室(公衛ビル)

内容: 会長談話: 三焦鍼法の医学的側面

講師: 基本手技の供覧、重要配穴の紹介、技術的点検と適正指導、手技テスト、総合テスト

修了書授与: 学生は受講証明書授与

一般社団法人老人病研究会・会員の特典

対象: 一般市民の会員と Gold-QPD 鍼灸師(医師を含む) 会員

~今後の連絡網は社団会員の手続を済んだ方に限定されることとなります~

一般社団法人老人病研究会

会長 川並 汪一

特典① 社団会員には年報第43号を含む記事を優先配布する。

〔I〕 三焦鍼法 Primary Objectives

三焦鍼法と認知症と Gold-QPD 鍼灸師の12年	常務理事	兵頭 明
三焦鍼法の手技トレーニング部門の特徴	理事	植松 秀彰

〔II〕 三焦鍼法 Extending Objectives

経験は新たな発見発展につながる第一歩	Gold-QPD 第12期生	越智富夫
三焦鍼法とコロナ後遺症について	Gold-QPD 第2期生	宮本泰之
Gold-QPD 鍼灸師取得後10年経って思うこと	Gold-QPD 第2期生	村橋健三

〔III〕 New Concept 三焦鍼法と大脳辺縁系 新宿漢方クリニック院長 川並汪一

本格的には今秋から、この年報も含め会員限定の交流となります。会員手続き無しの Gold-QPD 鍼灸師には、年報も特別の情報も送信されなくなりますのでご注意ください。

特典② News Letter の配信; 天津便り、Gold-QPD 鍼灸師便り、Big News などの発信。



(天津中医薬大学 韓景献教授と合意)

たとえば、天津だよりでは、

- ・韓景献先生と会長が東京で会談し、共同事業の継続推進に同意した。
- ・昨年度の総括と来年度計画の総論的打ち合わせを行い互いに同意した。
- ・天津中医薬大学における三焦鍼法の実践状況は、
認知症、変性性脳疾患に限定しておりとくに変性性脳疾患症例は多彩である。
- ・小脳変性疾患、パーキンソンなど特別配穴を提示し説明を受けた。
- ・天津では、メンタル疾患やコロナ後遺症の患者は外来に来ない。そのため施術経験がないので是非とも報告して欲しい。日本の三焦鍼法現状に対し興味津津でした。
- ・国内的には「生涯学習クラブ（仮称）」、国際版としては「Integrated Sanjiao International（仮称）」を運用するための共同運営に確認が得られた。
(天津側からは三焦鍼法を国外へ波及させる活動を実施しておらず、ぜひ日本側から推進して欲しいとの要望を得た。学会を結成することがあれば、その際には来日いたします。)

特典③ 三焦鍼法実践セミナーのZoomミーティングと手技トレーニングに参加できる。

- ・Zoomミーティングと手技トレーニングに参加し最新情報を年4回にわたり交換。
次回Zoomミーティング 8月20日18:00の予約を事務局が受付を開始した。
- ・次回手技トレーニング 9月17日9:00の予約を事務局が受付を開始した。
- ・ただし、オンライン講座視聴については当面解放しない。
- ・オンライン講座の延長上に設定予定の「生涯学習クラブ（仮名）」を期間限定で利用を許可し内容向上のためご尽力をお願いしたい（中間常務理事の運営）。
トップページ：新着情報や三焦鍼法実践セミナーのご案内
イベントページ：地域フロンティア代表が定例イベントを自由に掲載
自己紹介ページ（個人の鍼灸院、クリニックを自身で自由に掲載）
Zoomミーティング：新しい話題や討議課題の提示
症例報告：論文、動画などによる症例報告の掲載
(基本的には社団理事が査読し学会論文並みの扱いに移行してゆきたい)
ゴールドコースの報告例は、順次論文として掲載を予定している。
(社団の年報は、統合医療系の学会誌として内容を変貌させてゆく予定)
教育コンテンツ：動画を含む漢方、高齢者関連情報、医療情報の提示
オンライン商品の販売：高齢者用サプリ、食品、化粧品、運動用具など

特典④ 専門医、介護福祉、漢方その他のエキスパートへアドバイスを依頼できる。
事務局を介しどんな質問にも回答を提示し会員同士で共有するシステムとする。

特典⑤ ゴールドコースの「三焦鍼法上級専門鍼灸師」（三焦鍼法マイスター）資格の取得に挑戦できる。

その他

一般社団法人老人病研究会の新理事メンバー

2023年6月



川並 汪一 会長

日本医科大学名誉教授（元大学院老人病研究所所長）
ベルギー国・ルーバンカトリック総合大学医学部助手
米国・NIH・NHLBI 特別招聘研究員、WHO・WPRO アドバイザー
新宿漢方クリニック（総合診療科、鍼灸・漢方）院長



黒川 胤臣 副会長（統合医療担当）

防衛医科大学校元外科1病院講師
法務省関東医療少年院院長 神奈川医療少年院院長
自衛隊江田島病院元院長（二等海佐）自衛隊横須賀病院元外科長（一等海佐）
日本東洋医学会：認定医・指導医 品川荏原ライフケアクリニック院長



兵頭 明 常務理事（中医学担当）

関西大学経済学部卒、天津中医薬大学客員教授、北京中医薬大学客員教授
筑波大学非常勤講師、世界中医薬連合学会教育指導委員会理事、
学校法人衛生学園・中医学教育臨床支援センター・センター長
（一社）日本中医学会理事



岸 泰宏 理事（精神科担当）

日本医科大学武蔵小杉病院 精神科教授
アイオワ大学精神科フェロー、ミネソタ大学精神科フェロー
埼玉医科大学総合医療センター精神科准教授、
日本スポーツ精神医学会、メンタルヘルス運動指導士



野村 浩一

理事 (脳神経内科担当)

医療法人 SHIODA 塩田病院 脳神経内科 部長

町立八丈病院内科 (元)、山形県北村山公立病院神経内科 (元)

日本神経学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医

日本認知症学会専門医・指導医 日本認知症予防学会専門医 認知症サポート医



植松 秀彰

理事 (中医学担当)

東京衛生学園卒、東京医療専門学校鍼灸教員養成科

医療法人財団天京会 牧田・中医クリニック元代表

明治薬科大学非常勤講師 東洋鍼灸専門学校非常勤講師

NPO 法人多機能型事業所え〜る 非常勤



北島 学

常務理事 (介護福祉担当)

介護福祉士・介護支援専門員・認知症ケア専門士

(株) 舞浜倶楽部統括施設長

スウェーデン緩和ケア研修センター・センター長

浦安認知症支援推進員



越智 富夫

理事 (中医学・高齢福祉・心理学担当)

中国留学 (天津第一附属病院；石学敏、南陽市；李世珍など)

日本中医学会評議員、介護予防運動指導員、認定心理士

(公社)愛媛県鍼灸師会業務執行理事 愛媛中医学研究会代表

介護支援専門員 認定心理士 越智東洋はり院・院長



山中 直樹 理事 (柔整・鍼灸実践担当)

学校法人敬心学園日本医学柔整鍼灸専門学校卒
東京衛生学園専門学校東洋医療総合学科卒 同臨床教育専攻科卒
日本医学柔整鍼灸専門学校鍼灸学科 専任教員
Gold-QPD 地域フロンティア代表



中間 優 常務理事 (社団組織改革担当)

2001年3月 システム開発会社起業 (当時24才)
ネイルサロン事業投資 8店舗に拡大
2017年4月 コンサルティング(株) 組織改革代表取締役
BAP (Business in Asia-Pacific) Zoom ミーティング立ち上げ



一般社団法人老人病研究会・会員 (2023年6月現在)

Gold-QPD 鍼灸師は一般社団法人老人病研究会メンバーとなることで、さまざまな特典が付与されます。生涯学習クラブ(仮称)は、国内学会形式で運営します。また国際学会として Integrated Sanjiao International (仮称) の設立を目指しております。いずれも、今秋からの公開を目指し準備中です。
三焦鍼法が治療効果を発揮する「認知症」、「メンタル疾患」、「コロナ後遺症」などの中医学的、先端医学的な背景をより深く追求するつもりです。

一般社団法人老人病研究会・個人会員名簿

会長	川並 汪一	監事	上田 淳
副会長	黒川 胤臣	監事	野村 進
常務理事	兵頭 明	事務局長代行	佐藤貞夫
常務理事	北島 学		
常務理事	中間 優	顧問	赫彰郎 (日医大元理事長)
理事	岸 泰宏	顧問	田尻孝 (日医大元学長)
理事	野村 浩一	顧問	漆原 彰 (大宮共立病院理事長)
理事	植松 秀彰	顧問	高橋 章
理事	越智 富夫	顧問	韓 景猷 (天津中医薬大学教授)
理事	山中 直樹	顧問	張 允嶺 (北京中医薬大学教授)
		参与	金 恩京 (北京康語軒董事長)

一般

北村 伸	若林 庸道	厚見 昌平	遠藤 一郎
廉隅 紀明	若林 潤	福生 吉裕	尾崎 敏夫
佐藤 貞夫	渡辺 茂	相本 隆幸	勝又 忠臣
千代 勝彦	渡辺 典子	石橋 榮次	金原 和也
本田 啓二郎	綿引 義城	猪口 正孝	川並 弘樹
渡辺 健一郎	綿引 義師	鈴木 由美子	木村 一昭
青木 見佳子	遠藤 正達	鈴木 克行	木村 敦子
高橋 睦美	小泉 信一郎	西根 晃	久我 正文
田代 郁代	人見 光太郎	南 順文	中西 憲幸

安田達朗 グスタフ・ストランドル

Gold-QPD

第1期松田 直哉	第8期 橋本美貴恵	第10期 大野 達也	第12期 大木 千穂
第2期 高木由紀子	第9期 鈴木 敬太	第10期 白石 一博	第12期 山本 優生
第2期卒 有賀 広	第9期 小林 梨紗	第10期 横木 宗晴	第12期 菊川ゆかり
第2期卒 佐藤 幸夫	第9期 加藤 真二	第10期 田澤 慶子	第12期 越智 富夫
第3期白貝信人	第9期 酒井 優子	第10期 利根 貴志	第12期 河合 由昭
第3期宮本泰之	第9期 佐藤 裕子	第11期 大塚 俊行	第12期 大庭 千秋
第5期河口由紀	第9期 池澤 肇	第11期 佐川 聖子	第14期 岡 真樹子
第8期 高木 真弥	第9期 雄倉 俊行	第11期 齋藤恵美子	第14期 大澤 祥隆
第8期岡田 奈々	第9期 藤田 周一郎	第11期 山口 格	第14回 神谷 恭子
第8期 半田 将利	第9期鈴木敬太	第11期 森 勇樹	第14期 富岡 隆夫
第8期 半田 真一	第9期 西村 辰也	第11期 戸谷 功治	第15期 須藤 健太郎
第8期 水上 詠治	第9期 畠山 由香利	第12期 町野 公一	第15期 野口 三郎
第8期 原田 里奈	第10期 押田 菜摘	第12期 島田 直浩	第15期 小森由香
第8期 橋口 知光	第10期 野原 隆博	第12期 岩村 有子	(その他手続き中)

一般社団法人老人病研究会・団体・賛助・特別会員名簿

- 1 団体会員 (株)集客会議
- 2 賛助会員 (社)有隣厚生会 富士病院
- 3 賛助会員 セイリン株式会社
- 4 賛助会員 日本シルクバイオ研究所
- 5 特別会員 エーザイ株式会社

以上、一般社団法人老人病研究会のこれまでの業績は、
すべて個人会員と団体・賛助・特別会員諸氏のご支援により実現いたしました。

これからはじまる新理事会も、
個人会員と団体・賛助・特別会員の一方ならぬサポートの下にあることを肝に銘じ、
一般社団法人老人病研究会の理念を実現するため日々の活動を継続する所存です。
今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

編集後記

2020年以降、新型コロナウイルス感染により全ての集会的講座の開催が不可能になった。本法人の主要事業である「認知症 Gold-QPD 育成講座」もその例外ではなく中断となり方向転換の期となりました。

コロナ禍での開催を新たにオンライン方式の開催に転換し3年が経過しました。

講座の名称を「健康長寿・認知症 Gold-QPD 実践セミナー」そして「三焦鍼法実践セミナー」に改称しました。

健康長寿を目指す人の日常の健康増進のため、東洋医学・西洋医学両医療の連携により認知症の人およびその家族のために病気の予防と治療と緩和ケアによるお手伝いが出来る専門職種の講座を開催することにしました。

実施方法は、実践手技トレーニング部分を少人数制にし年4回の実施とし座学の部分を（旧ブロンズコース（西洋医学・中医学・介護系））をeラーニング〔Gold-QPD mooc〕とZoomによる質疑応答ミーティング方式にして実施しています。

コロナ禍での3年間の経験を礎に今後もより改善を重ね、よりよい講座に発展するよう努力していきます。

年報第43号発行にあたり、本講座受講者から現場での実践成果を3題ご寄稿いただき掲載する事が出来ました。心より感謝申し上げます。

また、多くの方々からご寄稿いただき整うことが出来ました。

皆様には心からお礼申し上げますと共に感謝申し上げます。

今後ともご支援、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

事務局長代行 佐藤 貞夫

*表紙題字は石川正臣書（学校法人日本医科大学元理事長・学長）
（社団法人老人病研究会第2代会長）

老人病研究会年報 第43号 2023
— Integrated Sanjiao International —

発行 2023年6月30日

発行者 川並 汪一

発行所 一般社団法人老人病研究会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29-8 3階

新宿漢方クリニック内 電話 080-8837-0758